

—— sUmさんは地元の富山で写真展を開催しておられますが、地元以外での個展は視野にありますか？

正直、地元以外で写真展をやりたいという気持ちはあります。そろそろ県外に目を向けていきたいと思ってはいるんですが、自分は保守的な部分はとても保守的なんです。次のステージに向けての一步を躊躇する。けど、これだ！って思い立てば、悩んでいた殻を破れば突き進められるんです。東京とかでの個展も開催したいですね。

—— sUmさんは、2019年のAbox展の展示を見に来て下さって、それがきっかけでAboxに参加になったんですよね？

自分だけで作品を撮っていて、行き詰まって来ていたんです。もっと写真を撮っている人たちと繋がりがたかった。Abox展の写真のレベルが高くて、自分もここに関わりたいなと思ったんです。Aboxに関わる時は誰に話せばいいか分からなかったんですけど、展示会場で、あの人が塾長かな？と、高崎先生の姿を見つけて、会話されているのを終わるのを待ってから、高崎先生を目掛けて行きましたよ（笑）。



今ではAbox展の設営に参加する大切な一員

——Aboxのゼミでは大判カメラで撮影した作品を何点か講評に持って来てますよね。以前、街中での作品も持って来られてましたけど、大判カメラで撮影していると声を掛けられませんか？

声はかけられますね。一番多く言われるのは「そのカメラなんですか？」ですね。やっぱり大判カメラは目立つんですよ。大きいし、珍しい。日常だと目に触れるのはテレビの中や、写真屋ぐらいなのに、それを持って街中で撮ってるんですからね。自分も大判カメラに触れてなかったら、絶対に声を掛けますよ（笑）。